１００年目の中学部

JUNIOR HIGH SCHOOL



大正14（1925）年に私立中郡書語学校として開校した本校は、昨年、令和７（2025）年に100周年を迎えました。『学校要覧』の沿革のページを見ると、昭和の初めの頃は「中等部」や「高等部」という言葉が出てきます。現在とは違う学制のなかで「中学部」にあたる生徒たちはどのように学校生活を送っていたのでしょうか。昭和、平成、令和と時代が進む中で「中学部」はどのように変わってきたのでしょうか。今までの歩みに思いを馳せつつ、100年目の中学部をご紹介したいと思います。

＜学部の様子＞

令和7年度の中学部の在籍生徒数は、1年生6名、2年生2名、3年生5名の合計13名でした。そして現在、令和8年度は1年生1名、2年生6名、3年生2名の合計９名が在籍しています。

ここ数年、生徒数は少ない傾向が続いていますが、少ないからこそ小集団や個別での学習や活動を進めやすいところもあります。また、体育の授業など人数が必要な場面では学年を越えて学部全体で授業を行っています。

100年目の中学部は、人数は少なくても、明るく元気な学部です。

＜行事の様子＞

2年次には、県立ふれあいの村を利用して宿泊学習を行っています。3年次には、関西方面に修学旅行に出かけています。

交流学習としては、ＪＲ平塚駅を訪問して職員の皆様と交流させていただいたり、平塚中等教育学校や相模原中央支援学校中学部との年1回の交流を楽しんだりしています。

また、毎年10月に行われる本校の「平ろう祭」では和太鼓演奏の発表をしています。かつて「鼓舞子」の皆様が熱意をもって取り組まれていたことが、形をかえて中学部で受け継がれています。

＜学部目標＞

- 豊かな情操をもち、協調する心をもつ生徒を育てる。
- 豊かな言語生活を営む生徒を育てる。
- 基礎学力を身につけ、自ら考える力をもつ、創造性豊かな生徒を育てる。
- キャリア教育の視点に基づき、豊かな社会性と自立心をもつ生徒を育てる。

＜コミュニケーションや「きこえ」に関する学習＞

「自立活動」の授業の中で、ろう・難聴の教員の指導による手話の学習が行われたり、言葉づかいや書記日本語の力を高めていくために作文についての学習が進められたりしています。また、補聴機器の維持管理の方法やオージオグラムの読み方などを学んだりもしています。希望する生徒には発音や発語についての指導も行っています。





この先の100年も、中学部が明るく元気で、楽しい笑顔の学部でありますように。